

# 松山市教育会情報

発行所 松山市教育会  
松山市祝谷町1-5-33  
☎ 089-933-0354  
発行者 田中務  
編集 調査研究部

## 新たな一歩へ



会長  
田中務



—松山騒動—「ふるさと松山」さし絵より

平成25年度の松山市教育会の活動も折り返し地点を迎えました。

会員の皆様には、日ごろはそれぞれの支部で、現職会員とOB会員との違いはありますが、それぞれのお立場で、本会の活動にご協力いただいておりますこと、厚く感謝申し上げます。

さて、本会は、近年、支部活動やブロック行事、ボランティア活動等に新しい動きが少しずつ見られるようになってはいますが、会員の減少や高齢化、連帯感・所属感の希薄化などからくる行事への参加者の減少、活動のマンネリ化など、いくつかの課題を抱えています。

会員の減少だけを見ましても、24年度は前年度と比較して、退職時のOB会員への移行減、OB会員の中途退会の増、現職教員の定数減などが主な理由で、79名も減っています。

これらの課題を解決するためには、本会の更なる活性化を図り、本会を少しでも魅力が感じられるようにしなければなりません。そこで、現在、本部役員と各支部長さんが協力し、会員の皆様が「参加してよかった。楽しかった。」と思えるような、行事の精選、内容等の見直しに取り組んでいます。

そこで、会員の皆様へのお願いですが、現在は「ただ、なんとなく入会している。」という傍観者的な気持ちの会員さんがあまりにも多いと思います。会員の皆様一人一人が「自分たちの教育会である。自分たちで育てていくのだ。」という強い気持ちに切り替えていただき、各支部の総会への参加など、「自分にできることから、始める。」ことが大切だと思うのですが、いかがでしょうか。

そして、更に、会員相互の親和提携の緊密化、OB会員による現職会員への研修活動への支援などを推し進め、今まで以上に現職会員とOB会員が「相互の絆」を強め、現退一体となって活動の輪・教育の輪を広げる必要があると思います。

また、先般、「我が国の65歳以上の高齢者の人口が3千万を超え、総人口の24.1%を占める」という報道がありました。このような高齢社会を迎え、今、多彩な知識や豊かな経験をもつ高齢者の社会貢献活動に、大きな期待が寄せられています。私たち本会には、豊富な人材が揃っています。

学校教育の協力、支援はもとより、他の団体とも積極的に連携、協力し、子どもたちのために、そして、地域のために役立つ組織となろうではありませんか。

多くの先輩方のご尽力により、半世紀近く守り育てられてきた松山市教育会の伝統を継承するとともに、我々の手で更に盛り上げていこうではありませんか。

# 平成24年度 教育功労者 松山市教育会



井上数光氏

県教育会編集出版部長として学習資料等の普及に努め、20年間、石井北支部の会計として、また、退職公務員連盟の理事として職責を果たすとともに、教育会の存続発展に寄与した。学習アシスタントとして石井北小、椿中の算数・数学の指導に熱心にかかわり、児童生徒の健全育成にも多大な貢献を果たした。学校行事にも積極的に参加し常に児童生徒を温かく見守っている。

長井恵三氏

平成15年度から9年間にわたり、河野地区人権教育推進協議会長として地域の人権啓発及び同和教育の推進に尽力された。毎年各集会所で開催される地区別人権・同和教育懇談会において内容や方法など検討を重ね、様々な人権教育の充実に努めた。北条地区人権教育研究大会では2度にわたり代表として問題提起をされている。長年にわたって地域の人権教育の充実に努められた。

客野壽雄氏

松山東署交通安全協会城西支部長として、毎月20日には「死亡0ベルト」を締め「人の輪のほり」を掲げて交通安全指導に当たり、毎朝、毎夕、児童生徒の安全な登下校、高校生への安全な自転車走行への声掛けをされた。味酒小、城西中の各種行事や会合にはすべて参加し、建設的な意見や行動で学校運営や健全育成に協力された。教育会の各種会合にも積極的に参加している。

玉井俊幸氏

松山教育事務所社会教育推進員として、管内社会教育の推進及びヤングホットラインの青少年の電話相談に熱心に取り組んだ。北条中央公民館長になってからは、斬新な発想で家庭教育、高齢者教育、各種グループの育成など公民館活動の推進に尽力された。北条幼稚園長、風早自然学校ポレポレの代表として活躍する傍ら、各地で講演、講話を行っている。

森厚氏

学校事務として42年間勤務のうち、27年間にわたり松山市主任会長、県事務局長会中予理事、愛教研事務部広報部長・総務委員などの要職を歴任し、事務職全般の牽引役として力を発揮した。学校事務共同実施では室長として基礎を築き、一人一人の事務職員の資質を十分に生かす取組を行った。生徒にも積極的にかわり、教育への熱い思いが環境整備や教職員への働きかけに生かされている。

# 松山市教育会 松山市研究協議会 合同 教育研修会

平成25年8月22日(木) エスポワール愛媛文教会館

平成25年度第1回教育研修会が、松山市教育研究協議会と共催で行われた。講師として、森田ジャズダンススタジオを主催されている森田 康二(もりた こうじ)先生をお招きし、「ダンスとミュージカルの演技指導論と実技」と題して講演と実技指導をしていただいた。

森田先生は、高校卒業後上京し、ジャズダンスとクラシックバレエを学び、その後ミュージカルの舞台やアイドル歌手のバックダンサーとしてテレビやショーに出演して活躍、帰松後上記スタジオを主催された。松山市民ミュージカルの第1回から演出や振り付けを担当され、現在にいたるまで深く関わっておられる方である。また、松山市総合フェスティバル運営委員、松山市文化祭実行委員等を歴任され、2001年には、愛媛県文化協会奨励賞を受賞されている。現在は、愛媛演劇集団協議会事務局長や松山市文化協会評議委員等を兼務されながら、後進の指導に取り組み、劇団「四季」への合格者を多数輩出するなど、ジャズダンスやタップダンス等の指導を通して、地方から若き才能の発掘や夢の実現に邁進されている。今回は、森田先生のご講演いただき、指導者として必要な姿勢についてご教示いただいた。その概要は次の通りである。

## 1 20代の芸能時代のエピソードから

高校卒業後の進路を考える時に、将来はダンスの指導者になろうと考え、演劇の専門学校へ進学するため上京した。新聞奨学生の時、プロのカメラマンを目指していた先輩から「プロのダンサーを目指すなら『バカ』にならなければいけない」と言われ、「人の2倍は努力しないとイケない」と思い、睡眠時間が1日2時間の生活を送った。演劇やダンスの練習を続け、24歳くらいから役者やバックダンサーとして、テレビやショーへ出演するようになった。上京後約10年後に帰松して、現在のジャズダンススタジオを立ち上げ、そのころから「市民ミュージカル」との関わりが始まった。



## 2 現在の演技指導法 ～市民ミュージカルでの指導を通して～

毎年、市民ミュージカルには、200～300人の応募があるが、オーディションを行って、150名を選ぶ。そのうち4～5割の人は、ミュージカル未経験である。まず、出演者には、「(台詞を覚えてくる)予習が大切」ということを伝える。そして練習中の交代(チェンジ)は避難訓練のつもりで「5秒以内で行う」ことを要求している。そして、出演者が「ほめてうまくなる子」か「怒ってうまくなる子」かを見極めることが必要である。年代別に言えば、小学校の低学年には、怖さを持って欲しくないで「敬語」を使い、高学年にはみんなの前では叱らないで、自覚を持って低学年の出演者に教えさせている。中学生は友達のように接し、高校生には大人として接している。大人の出演者には厳しく接し、叱る場合には大人を叱るようにしている。しかし、やればできるのにやらない時はめっちゃくちゃ怒るが、そのためには普段からコミュニケーションを取っておくことが必要である。

また、プロを目指すには「運」が必要とも伝えている。必ず2、3回はチャンスが来るので、それを逃さないために、普段から演技、歌、ダンスに努力して取り組むことが大切である。

### 「参加者の声」

- 幅広い年齢層の出演者がいるため「演出は、出演者に合わせて指導する」という指導方法は、学校での指導にも生かすことのできるものである。特に、(小学生に対して)ダンスの振り付けの確認をする方法は、参考になった。ぜひミュージカルを見てみたい。

# 第6回 教育講座 ① 「保護者対応の在り方 —保護者対応の基本—」

講師 愛媛県総合教育センター 教育相談室 指導主事 土居 浩 先生  
指導主事 渡部 勇樹 先生

平成25年8月8日(木)午前10時から文教会館において、平成25年度の松山市教育会教育講座①「保護者対応の在り方—保護者対応の基本—」が、約70名が参加し、開催されました。

はじめに、松山市教育会久坂副会長の開会挨拶、続いて山高調査研究部長から講師紹介があり、教育講座が始まりました。講座は、I部「クレームは、本当にクレームなのか」、II部「具体的な対応」、III部「学校の見える化」で進められました。

## I部 クレームは、本当にクレームなのか

### 1 社会的背景について

クレームが増大している背景については、保護者の高学歴化、少子化の状況でのわが子かわいさからくる自分が大事(自分のプライドを大事にする)、言わなきゃ損という考え、マスコミなどでの公務員等への批判的見方、消費者意識、ストレス社会、学校のマイナスの要因などがよく取り上げられてしまう状況がある。また、大きな背景として、すべての保護者は、学校教育を通過していることから、学校のことをよく知っているということでクレームが多いのではないかと思われる。

### 2 クレーマーの特質

クレーマーの特質として、利己的、他者の立場を理解できない(他人のことはどうでもいいという風潮)、実現性の可否を認識できないこと、教師が嫌いであること(学校生活でいい思い出がないなど)、自分はまともであるという意識、被害者意識が強く他者を巻き込み横のつながりができると学校に乗り込む特質があることなどを理解しておく必要があり、私たちの今までの認知の修正をすることが必要である。

### 3 学校の問題点

学校の教員は、大人相手は慣れていないことから、最初の前さばきが下手であること、専門家意識が強いこと、隠匿姿勢が残存していること、窓口がわからないなどの閉鎖性、人の話の聞けない、聞かない教師、問題を過小評価する傾向があること、社会の変化についていけない学校文化、謝り下手などが問題点ではないかと思われ、これらについても、私たちの認知の修正をしておく必要がある。

### 4 地域の声を学校で生かす

地域からの苦情などについて、例えば、落ち葉の苦情について、子どもたちの活動に関係することは、生徒会や児童会の役員などを通じて子どもたち伝え、話し合うことも一つの方法ではないかと思われる。子どもたちが、こんな苦情は、おかしいなあとか、これは、言われるとおりだなあとか考えることも大切である。苦情に対して、みんなで落ち葉を拾い行こうなどのアイデアが出て、その方のところへ行って挨拶をしたり、作業をしたりすると、よい結果が出て、学校の協力者になってもらえる場合もあるので、地域の声を生かして工夫して取り組むことも大切である。

## 5 クレーム調査から

平成23年度の中予地区の学校に対するクレーム調査の結果から、特に環境・音等についてのクレームは、その対応について考えておき、職員に周知しておくことが必要である。さらに、理不尽な要求には、はっきり拒否すること、情報を共有し、複数で対応し、必要に応じて、録音することを伝えるなどの対応も有効であること、また、脅迫、暴行、監禁等の犯罪行為は、警察へ通報することも必要である。

## Ⅱ部 具体的な対応

基本的には、「笑顔で」、お礼、感謝の言葉→「聞く」うなずき、相づち、褒め言葉→要点のまとめと確認→問題や共有目標を確認→問題解決の方策検討と再確認」という流れになる。そして、ここで留意することは、まず、「笑顔で」対応することが大切である。また、クレームは、学校評価でありアドバイスである。また、学校への協力者になりうることも考えられる。

次に「聞く」ということについては、相手の思考を理解し、うなづくことも大切で、どこが問題なのか、学校にも非がありはしないかなどを考えていく必要がある。

(この後、講師の指導のもと、参加者が、二人一組になり、クレームに対して、「笑顔で」、「聞く」ことなどに留意して、苦情と対応について、ロールプレイングを行い、状況に応じた対応について相互に学んだ。)

## Ⅲ部 学校の見える化

学校が開示すべき三つの情報として、教育実践に関する考え方と展開する方法、日常の教育実践の様子や子どもたちの学校生活の様子、節目ごとの成果の情報について公開する必要があること、また、家庭との信頼づくりのために、学校だより・学級通信を発行や学年PTAを活用することなど、保護者のニーズを把握し対応することも大切である。

参考として、大阪府の高野台中学校が作成している学校ナビ(学校ハンドブック)があり、これは、個々に文書で連絡を随時するよりも、よくまとめてられており混乱や苦情が少なくなった例として、紹介があった。

最後に、保護者に対して、「何でも言ってください」と言うときに、教師の言う想定範囲と親がいう範囲は違うことがあることに注意する必要があること、現代は不安が不満に変わりやすい時代であり、教師への不満ではなく親も不安な状況でもあることなどにも留意する必要があることなどについて説明があり、講座を終了した。



(参考) 参加者の感想を一部紹介します。

- ・ロールプレイングをしてみてよかった。
- ・対応の具体的な内容、対処について知ることができた。
- ・クレームは本当にクレームなのか。「何でも」の範囲が違うということなどが参考になった。

## 第6回 教育講座② 「道徳教育」

講師 愛媛県総合教育センター 企画開発室 指導主事 山岡 健二 先生

今年度は、「学校の教育活動全体で進める道徳教育～各教科における道徳教育の考え方～」 「豊かな心を育てる道徳の時間～道徳の時間の特質を踏まえた言語活動の工夫～」に視点を当てた講座を開催しました。

松山市教育会の田中務会長の開会のあいさつに続いて、友澤大身副会長により講師の紹介を行い、講座が始まりました。

期日：平成25年8月12日（月）午前10時から

### <道徳性と道徳的実践力について>

まず、道徳性と道徳的実践力について、身近にある例や図を用いて分かりやすく説明していただきました。

道徳性とは→ 人間として本来のあり方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすもの。その中で、6つの点を挙げられました。



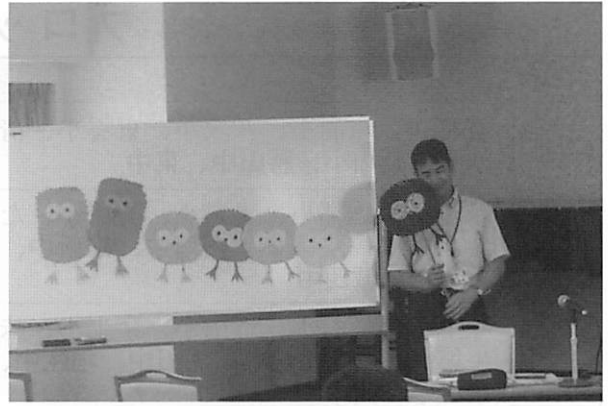
- 道徳的心情  
道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと
- 道徳的判断力  
道徳的価値が大切なことを理解し、人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力
- 道徳的実践意欲  
道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意思の働き
- 道徳的態度  
道徳的心情や道徳的判断力、道徳的実践意欲に支えられた具体的な道徳行為への身構え
- 道徳的習慣  
繰り返すうちに習慣化した望ましい行動
- 道徳的行為  
人間としてよりよく生きるために行う行為

道徳的実践力とは→ 人間としてよりよく生きていく力であり、将来適切な行為を実践することができるような内面的資質。「道徳的心情」「道徳的判断力」「道徳的実践意欲」「道徳的態度」を包括するものである。

### <道徳の時間の特質>

道徳の授業の特質として4つの点を挙げられ、その際、各教科で行う道徳教育の考え方について、学習指導要領をもとに説明していただきました。

- 1 計画的・発展的に指導する
- 2 補充・深化・統合する
- 3 道徳的価値の自覚を深める
- 4 道徳的実践力を育成する



### <道徳の時間に生かし指導の工夫>

指導方法の工夫として、「7つの引き出し」を提示していただきました。

#### 1 資料提示

子どもを資料と出合わせ、想像や共感をかき立て、問題意識をもたせる。

#### 2 発問

子どもの心を動かし、多様な考えを引き出し、思考を深める。授業のねらいにかかわる中心発問をまず考え、次に中心発問を生かすためにその前後の発問を考え、全体を一体的に捉えるようにする。

#### 3 話し合い

子ども相互に多様な考えを学び合い、深め合い切磋琢磨する。児童生徒相互に響きあい、討論することができるように工夫する。

#### 4 書く活動

個別化の中で個性的な考えが深められる。自ら考えを深めたり、整理したりする機会として、重要な意味を持つ。

#### 5 表現活動

一人一人の考えが内面から語られ、実感的に深められるようにする。児童生徒の動作や表情が創造的に発揮される場の設定を工夫する。

#### 6 板書

思考を深める重要な手掛かり。順接的、時系列的な構成だけでなく、構造的な構成になるよう工夫する。

#### 7 説話

子どもに伝えたいことを教師の言葉で伝える。教師が自らを語ることによって子どもとの信頼関係が増す。

### <参加者の感想(一部)>

- 具体例を示していただいたり、ワークショップがあったり充実した講座だった。
- 道徳についての概要が理解できた。
- 演習問題があり、自分で考えて、周囲の先生方とも情報交換ができ、心地よい緊張感があったよかった。
- 資料分析の手順がよく分かり、これからの道徳の時間の前に分析してみようと思った。

## ブロック編成

区名	学 校 名	区名	学 校 名
1区	番町小、味酒小、八坂小、東雲小、清水小、姫山小、勝山中、東中	5区	堀江小、潮見小、久枝小、和気小、みどり小、鴨川中、内宮中、北中
2区	新玉小、雄郡小、素鷲小、桑原小、たちばな小、双葉小、拓南中、雄新中、桑原中、城西中	6区	湯山小、日浦小、道後小、湯築小、伊台小、五明小、道後中、湯山中、日浦中、旭中
3区	味生小、生石小、垣生小、余土小、味生第二小、さくら小、津田中、垣生中、余土中、西中	7区	浮穴小、石井小、荏原小、坂本小、椿小、石井東小、石井北小、久谷中、南中、南第二中、椿中
4区	三津浜小、宮前小、高浜小、興居島小、怒和小、津和地小、中島小、三津浜中、高浜中、興居島中、中島中	8区	久米小、小野小、北久米小、福音小、窪田小、久米中、小野中
		9区	浅海小、難波小、立岩小、正岡小、北条小、河野小、粟井小、北条北中、北条南中

## ブロック紹介

### 親睦グラウンドゴルフ大会

第3ブロック理事 山高 吉仁

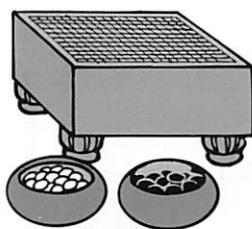
第3ブロックは、味生（味生小）、生石（生石小・西中）、垣生（垣生小・垣生中）、余土（余土小・余土中）、味生第二（味生第二小・津田中）、さくら（さくら小）の6支部からなっております。年2回、6月と2月にブロック支部長会及び事務局長会を実施しております。メインの活動は夏休み中に開催する「親睦グラウンドゴルフ大会」です。その世話は、各支部が2年ごとの持ち回りでを行い、今年度は垣生支部が担当しました。なお、本ブロックでは、このほかに、余土・さくら支部が毎年実施している「親睦旅行」に、他の支部からも希望参加させてもらっています。

5年前の市教育会の支部長会で、ブロックの活動が低調ではないかという意見が出て、各ブロックでその対応策が話し合われました。第3ブロックでも6支部長が鳩首協議した結果、「グラウンドゴルフ」をやってみようということになり、平成22年度からこの「親睦グラウンドゴルフ大会」が始まり、今年度で4回目を迎えました。グラウンドゴルフのルールは極めて簡単なので初心者でもすぐに競技に参加することができ、親睦のスポーツには最適です。

今年度は、8月11日（日）に、垣生小学校のグラウンドで開催いたしました。午前中だったとはいえ、当日はかなりの暑さで、現役・OB約50名の参加者は、いっぱい汗を流しながらも喜々として小さな玉を転がしておりました。6支部から八つのチームが参加し、かなりのハイスコアで「味生チーム」が優勝しました。ホールインワンも11人が達成して盛況裏に終わることができ、今年度も無事、会員の親睦、融和が図れたものと思っております。来年は、余土支部の担当で実施することになっております。

## 囲碁・将棋教室のご案内

福利厚生部



従来開催してきました「囲碁大会」を発展解消して、「囲碁・将棋教室」を試行実施することとし、8月19日には検討委員会を設け、9月初めに開講式を行いました。

教室の開催予定は次の通りです。9時開始17時終了の予定としています。  
10月19日(土) 11月16日(土) 12月21日(土) 1月11日(土)  
2月は未定です。興味がある方は市教育会事務局にご連絡ください。